

労働政策をきっかけに 企業同士の マッチングを

関経連副会長に就任することになるとは思ってもみませんでした。身に余る大役に正直、緊張しています。私が担当する労働政策は関経連にとって新しいテーマです。まず課題となるのは、これまで関西経営者協会(関西経協)が一手に引き受けていた労働政策にかかわる事業を、今後、関経連のなかでどのように生かして引き継いでいくか。下妻会長をはじめ皆さまにご協力いただきながら、うまく進めていきたいと思えます。関西経協が続けてきたセミナーや説明会、会員からの相談受け付けなどにはこれからもしっかりと取り組んでいきます。会員の皆さまのご意見を十分にくみ取り、タイムリーなテーマ設定によるセミナーや講習会の開催、提言の作成などを行うことで、ご要望にこたえていく所存です。また、新生・関経連となったことを生かし、大企業が持つ人事・労務のノウハウのうち、中堅・中小企業に活用できるものは使っていただけるようにする方策も考えたいと思っています。労働政策委員会については、委員長や2人の専門委員長、副委員長と相談した上で、できるだけ早く方向性を決定し、事業を始めていきます。

さらに、2009年度事業計画の重点事業のひとつである、KISP(独立系中堅ものづくり企業)の支援については、労働政策に関するフォーラムや交流会を中堅・中小企業と大企業の情報交換の場とし、中堅・中小企業の会員の方々にとってのメリットを出すことで貢献できるのではないのでしょうか。

また、同じく重点事業である「環境先進地域・関西の創出」に対しては、まず、会員企業や行政に趣旨を理解し、協力いただくための「啓発活動」が重要となります。そして、実際に事業を推進していく過程では、行政に対し、「規制緩和」への働きかけも必要になるかもしれません。関西の優れた環境技術やノウハウを普及促進さ



牧野 明次 氏

Akiji Makino

岩谷産業社長(関経連副会長)

せるための企業支援を進めていき、その結果として、「関西は環境分野に強い、関西へ行けば環境についてのどんな相談にも応じてくれる」と信頼されるようになった時、関西は真の環境先進地域になったといえるでしょう。関西経協との統合により、素晴らしい技術を持つ中堅・中小企業にも多数入会していただきました。そういった企業の力も合わせれば、環境先進地域の創出をより強力に推進できます。労働政策の事業がその橋渡し役の一端を担えるように頑張ります。

私の第一の仕事は関西経協から関経連に移ってこられた会員の皆さまに「関経連は敷居が高くて近寄りづらい」との印象を与えない土壌作りをすることだと認識しています。相談窓口を設け、「ちょっとあそこへ相談に行こう」と思っただけのよう、親身な対応で会員サービスを充実させることなども検討したいと考えています。「労務問題のワンストップサービス」を標ぼうしていた関西経協の精神を受け継ぎ、労務問題に限らず産業問題も含めてワンストップサービスでアドバイスできるような仕組みを作っていきたいと思えます。

人事・労務問題をきっかけに産業面やビジネス面でも中堅・中小企業と大企業のマッチングが成功していけば、「関経連に入ってよかったな」、「統合した成果が出たな」と思っただけのはずで。すべての会員の方に「統合してよかった」と思っただけのこと、それが新生・関経連の最初の目標ではないのでしょうか。その一助となるよう、私も力を尽くしてまいります。

談